

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 23 年度農業農村工学会大会講演会の開催について ㊦ 参加申込締切 6 月 30 日	80
○代議員支部候補者の立候補について 届出締切 3 月 25 日	82
○平成 23 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について	83
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	83
○「大地とともに一ある農用地技術集団の 55 年」の刊行について (再)	83
○論文集の J-STAGE (電子ジャーナル) 公開と投稿時の振込金について (再)	84
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	84
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	85
○平成 24 年の表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	85
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	86
○International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) の国際会議の開催について (第 1 報) 開催日 10 月 27, 28 日	87
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	87
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	87
学会記事	89

## 会員の皆様へお願い

4 月には転勤・卒業等で多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするため、学会に登録されている会員データに変更が生じる場合は、ご連絡いただきますようお願い致します。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出下さい。

また、学会誌を自宅、職場等で直接お受取りの方は、学会事務局までご連絡下さい。

詳しくは、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の新着情報をご覧下さい。

### 第 79 巻第 4 号予定

展望：農の営み、人の歩み：藤井克己

小特集：地域に貢献する「水土」の改善

- ①汎用田への品質改善客土の資源分布と利用指針：北川 巖
- ②棚田保全活動による耕作放棄地対策と地域活性化：中里良一
- ③「水土」を拓く産学クラスター：粟生田忠男ほか
- ④データの極端に少ない地域における新たな流域灌漑方策：長井 薫ほか
- ⑤地すべり保全のための七五三掛地区すべり面強土の検討：正田大輔ほか

### 技術リポート

- 北海道支部：タンチョウの生息環境への配慮：田中真也  
東北支部：再生粗骨材コンクリート製品の利用推進：由利佳菜子ほか  
関東支部：相模川左岸幹線用水路の補修対策と今後の対応：太田健介  
京都支部：豊川用水における石綿管除去対策の取組み：寺田守雄ほか  
中四国支部：機能保全計画に基づく開水路の補修対策：井上和幸  
九州支部：大口径推進工法による佐賀西部導水路の施工：柴田知広

小講座：水土における技術／科学の総合化：小泉 健

私のビジョン：あかとんぼの目で見える水稻栽培：神宮字 寛

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年8月 25, 26日	農村計画研究部会	第33回現地研修集会 ⓑ	未来への農業水利施設の継承	弘前市	79巻2号
平成23年9月 6~9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ		福岡市	78巻12号 79巻1,3号

### 平成23年度農業農村工学会大会講演会の開催について

#### 平成23年度農業農村工学会大会運営委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成23年度農業農村工学会大会講演会は、平成23年9月6日(火)～8日(木)の3日間、福岡市の九州大学箱崎キャンパスにて開催いたします。また、9月9日(金)には現地見学会を予定しています。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

講演会での講演申込みについては、本誌平成23年1月号会告を、会場設備や発表プログラムの詳細などについては続報(本誌6月号)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

〈注意いただきたい点〉

- 平成23年6月30日(木)までに参加申込みをいただき、7月29日(金)までに参加費の入金を確認された場合に限り、参加費の割引があります。
- 6月30日(木)までに参加申込みをいただいた方には、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。
- 印刷製本版の講演要旨集は、本大会では6月30日(木)までにお申込みいただいた方の人数分しか作成しません。締切日以降の申込みはできません。
- プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の概要(200字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。
- 参加申込みはホームページ(またはFAX)で受け付けます。農業農村工学会のホームページをご参照のうえ、ご利用下さい。
- 実行委員会で液晶プロジェクターおよび講演用パソコンを用意します。個人のパソコンの持込みをご希望の方は、各自で機器の接続切替えをお願いします。

#### 1. 開催要領

##### (1) 開会式典および学会賞授与式：

9月6日(火) 9:30～11:30(午前)

受付開始：9月6日(火) 8:45～(午前)

会場：九州大学箱崎キャンパス 創立50周年記念

講堂

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

- (2) 交流会：9月6日(火) 18:30～20:30(開始時間は講演スケジュールによって変更の場合あり)

会場：ホテルオークラ福岡 平安の間

〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-2

☎092-262-1111

- (3) 講演会：9月6日(火)、7日(水)、8日(木)

会場：九州大学箱崎キャンパス 文系共通講義棟

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

詳細は、プログラムとともに本誌6月号に掲載する予定です。

- (4) 現地見学会：「諫早湾干拓事業視察」：9月9日(金)【8:30頃 JR博多駅発→諫早湾干拓見学→17:30頃 福岡空港→18:00頃 JR博多駅着】

諫早湾干拓地(諫早湾干拓堤防管理事務所、潮受堤防中央部、中央干拓地・前面堤防中央部、営農支援センター)と白木峰高原(諫早平野、諫早湾干拓や雲仙普賢岳などが一望できる)などを視察。

\*事前予約制とし、参加希望者が少ない場合は中止、もしくは半日程度のミニコース(福岡県下)に変更する場合があります。申込締切は6月30日(木)です。

#### 2. 参加費用

- (1) 参加費用と内容：次の表をご覧ください。

	予約申込み		当日申込み			
	一般	学生	一般	学生		
CD-ROM版講演要旨集	全員配布		当日配布			
大会講演会	当日配布		当日配布			
申込締切日	6月30日(木)		大会当日			
支払締切日	7月29日(金)		大会当日			
印刷製本版講演要旨集	希望者のみ		なし			
会員種別	一般	学生	一般	学生	一般	学生
参加費	¥12,000	¥9,500	¥6,000	¥3,500	¥8,000	¥5,000

- (2) 交流会(参加者全員) 一般7,000円、学生3,500円

- (3) 現地見学会5,000円(昼食代1,000円を含む)。事前

予約制で先着順とします。申込締切は6月30日(木)です。

- (4) 現地見学会は、参加者が少ない場合は中止したり、半日程度のミニコース(福岡県下)に変更する場合があります。その場合は、ホームページ(3.(1)参照)やメールなどで連絡いたします。

### 3. 申込方法

参加申込みは、ホームページ(またはFAX)にて受付けます。業務簡素化のためホームページからの申込みにご協力下さい。なお、電話での申込み・問合せはご遠慮下さい。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書(FAX用)の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してFAXにて速やかにお知らせ下さい。

#### (1) ホームページによる申込み

農業農村工学会のホームページからお入り下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/fukuoka-taikai/>

#### (2) FAXによる申込み

下記宛にお申込み下さい。

(株)近畿日本ツーリスト九州、福岡支店

担当:本松 孝, 戸高 清

FAX 092-272-4901

### 4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いにも対応いたします。

お振込みの方は、7月29日(金)までに下記の指定銀行口座へお振込み下さい。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

振込先:三菱東京UFJ銀行

店 名:千代田支店

種 別:普通

口座番号:2564363

口座名:近畿日本ツーリスト(株)

\*請求書到着後、1週間以内でのお振込みをお願い申し上げます。

\*振り込み人名は、申込本人名として下さい。

6月30日(木)までに参加申込みをされ、7月29日(金)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

会社経費・公費などによるお支払いにも対応いたします。

講演会・交流会参加費、お弁当代は原則として払戻しはいたしません。現地見学会参加費は、申込数や、天候不順などにより中止とした場合は振込手数料を除き払戻しいたします。

### 5. 講演要旨集の事前送付について

6月30日(木)までに参加申込みをされた方全員にCD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申し込まれた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ、7月29日(金)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付に

て当日申込み扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計(一般12,000円、学生9,500円)を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨を明記して下さい。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

### 6. 昼 食

大学食堂は混雑が予想されますので、弁当の予約を受付けます。

弁当は1食850円(お茶つき、消費税込)です。ホームページ、もしくは参加申込み用紙に必要な事項を記入してFAXにてお申込み下さい。

### 7. 託児室について

事務局で、託児の民間サービスの利用を検討しています。希望者は事務局にお問い合わせ下さい。

### 8. 宿泊などの斡旋

各自でご手配をお願いします。なお、ホームページにおいて、若干数の宿泊の申込受付をしております。詳しくはホームページをご覧ください。

### 9. 会場までの交通案内

- (1) 開会式・表彰式会場:九州大学創立50周年記念講堂(キャンパスマップ31)  
(九州大学箱崎キャンパス;<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>)

#### ①空路:

・地下鉄「福岡空港駅」→「中洲川端駅」下車、箱崎線方面へ乗換→「箱崎九大前駅」で下車、徒歩約5分

#### ②JR:

・JR「博多駅」→地下鉄「中洲川端駅」下車、箱崎線方面へ乗換→「箱崎九大前駅」で下車、徒歩約5分

・JR「博多駅」→JR「箱崎駅」で下車、徒歩約15分

#### ③高速バス:

・天神バスセンター下車→地下鉄「天神駅」→(空港行きに乗車の場合「中洲川端駅」で箱崎線方面へ乗換)→「箱崎九大前駅」で下車、徒歩約5分

・博多駅バスセンター下車→地下鉄「博多駅」→「中洲川端駅」下車、箱崎線方面へ乗換→「箱崎九大前駅」で下車、徒歩約5分

#### ④自家用車:来訪者専用の駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

- (2) 講演会会場:九州大学箱崎キャンパス文系共通講義棟(講演会会場は、開会式・授与式会場から徒歩で約5分のところにありますのでご注意願います。キャンパスマップ10)

- (3) 交流会会場:ホテルオークラ福岡 平安の間  
地下鉄「中洲川端駅」直結(川端口の改札を出て6番出口)

<http://www.fuk.hotelokura.co.jp/index.html>

## 10. 問合せ先

## (1) 参加申込みに関する問合せ

(株) 近畿日本ツーリスト九州, 福岡支店

担当: 本松 孝, 戸高 清

〒812-0024 福岡市博多区綱場町 2-21

福岡 MD ビル 8 階

☎092-272-4891 FAX 092-272-4901

営業時間: 月~金 9:00~17:45 休業日: 土・日・祝

E-mail: fukuoka@or.kntk.co.jp

## (2) 大会全般に関する問合せ

平成 23 年度農業農村工学会大会事務局

事務局担当 凌 (しのぎ) 祥之

九州大学大学院農学研究院環境農学部門

生産環境科学講座灌漑利水学研究室

☎092-642-2909 FAX 092-642-2914

E-mail: JSIDRE 2011@bpes.kyushu-u.ac.jp

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

## 11. 実行委員会

委員長 大坪政美

九州大学大学院農学研究院環境農学部門

生産環境科学講座土環境学研究室

## 代議員支部候補者の立候補について

(社) 農業農村工学会北海道支部長・東北支部長・関東支部長・京都支部長・中国四国支部長・九州支部長

(社) 農業農村工学会正会員各位

今期の代議員は、平成 23 年 5 月 31 日で任期満了となりますので、次期の代議員を選出することとなります。

次期の代議員は、農業農村工学会定款第 14 条の規定により、次回の通常総会で選任されます。

通常総会に先駆け、農業農村工学会細則第 3 条の規定により、支部ごとに代議員の候補者を選出するため、下記のとおり立候補者の募集を行います。

## 記

- 立候補は、複数の正会員の推薦を受けた正会員に限りません。
- 立候補の届出先は、所属支部の代議員選挙管理委員会です。
- 立候補の届出期間は、平成 23 年 3 月 25 日です。
- 各支部の代議員見込み定数は、次のとおりです（正式には平成 23 年 3 月 14 日の第 218 回理事会で決定）。  
北海道支部 9 名、東北支部 18 名、関東支部 27 名  
京都支部 24 名、中国四国支部 19 名、九州支部 13 名
- ご不明の点は、学会本部事務局総務部長にお問い合わせ下さい。

(参考)

## 1. 農業農村工学会定款 (抜粋)

第 14 条 代議員は、正会員の中から別に定めるところにより総会で選任する。

2 代議員は、役員を兼ねることができない。

第 15 条 代議員は、総会に出席して審議議決を行う。

第 16 条 代議員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠又は増員による代議員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 代議員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

第 18 条 代議員は、無給とする。

第 32 条 総会は、代議員で構成する。

## 2. 農業農村工学会細則 (抜粋)

第 2 条 代議員の支部毎の選任定数は、代議員改選の年の 1 月末日の正会員の数 100 名につき 1 名を原則とし、理事会において決定する。ただし、定数が 150 名を超えるときは 150 名を、定数が 110 名未満のときは、110 名を各支部所属の正会員数に比例して按分するものとする。

第 3 条 代議員は、各支部毎に、支部所属の正会員による予備選挙で支部候補者を選出し、総会で選任する。

## 3. 代議員支部候補者選出予備選挙規程 (抜粋)

第 5 条 正会員で代議員に立候補する者は、当該支部の複数の正会員の推薦を受け選挙管理委員会に、所定の日までに届け出るものとする。

第 6 条 支部代議員候補者選考委員会は、代議員候補者を選考し、支部長を経て選挙管理委員会に届出するものとする。

第 7 条 選挙管理委員会は、所属支部の正会員に対し、前 2 条により届出のあった代議員候補者の所属・氏名を周知する。

2 前項の代議員候補者の所属・氏名の周知については、会長が各支部のものを代わって行うことができるものとする。

## 平成 23 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

### 学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 23 年度は、規程第 4 条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局あてお申し込み下さい。

#### 記

#### 1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

#### 2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成 23 年度中（平成 23 年 4 月から 24 年 3 月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

#### 3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度を限度とする。

#### 4. 申請締切 平成 23 年 4 月 28 日（木）

#### 5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

#### 6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

## 「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 22 年度までに 56 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 「大地とともに—ある農用地技術集団の 55 年—」の刊行について（再）

森林総合研究所森林農地整備センターの農用地部門は、前身である農地開発機械公団の設立以来、半世紀以上にわたり農業農村基盤の整備において常に先駆的役割を果たしてきました。しかし、同センターの農用地部門は、現在実施中の事業の完了をもってその役割を終えようとしています。この「大地とともに—ある農用地技術集団の 55 年—」は、同センター内で記念誌として出版の準備を進めていたところ、農業農村工学の歴史

として承継すべき出版物と考え、農業農村工学会が同センターとともに発刊することになり、下記のとおり昨年 10 月末に刊行しました。

#### 記

書名 大地とともに—ある農用地技術集団の 55 年—

体裁 B5 判 9 ポイント組 本文約 430 ページ

価格 定価 7,000 円（税込・送料学会負担）

会員特価 4,500 円 (税込・送料学会負担)

※在庫がなくなり次第販売は終了となります。購入希望の方は、申込方法について連絡先にお問い合わせ下さい。

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

## 論文集の J-STAGE (電子ジャーナル) 公開と投稿時の振込金について (再)

### 論文集編集委員会

論文集の J-STAGE (電子ジャーナル) への登載について、第 259 号から第 265 号が公開されています。J-STAGE への登載は発行の 1 年後の公開となります。有効活用いただきますようお願い申し上げます。

下記 URL よりご覧下さい。

【J-STAGE トップページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

【学会 日本語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre/-char/ja>

【学会 英語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre>

論文集の J-STAGE への登載に伴い、論文集投稿時の振込金が変更されています。これまで投稿料 16,000 円を投稿時にお

振り込みいただいておりましたが、J-STAGE への登載料 4,000 円 (J-STAGE への登載料は 5,000 円ですが、1,000 円は従来の投稿料から捻出することとし、4,000 円を新たに負担いただきます。) についてもあらかじめ徴収することとし、平成 22 年 4 月 1 日受付分より合計 20,000 円をお振り込みいただいています。

その理由としては、論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載するために JST に支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料 4,000 円は返金いたします。

なお、論文集 259 号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承いただきたくよろしくお願い申し上げます。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

### 行事企画委員会

#### 技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした CPD 通信教育を実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限 参加は、いつからでも可能です。

#### 3. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通

信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成します。回答はメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

#### 5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した点数を本人にお知らせし、5 月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

## 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

## 平成 24 年の表紙写真の募集

### 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 24 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。今回の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

#### 記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦

労が垣間見える造形美」

#### 2. 対象巻号

学会誌第 80 巻（平成 24 年 1～12 月号）

#### 3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

#### 4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締 切

秋季～冬季	平成 23 年 3 月 31 日
春季	平成 23 年 6 月 30 日
夏季	平成 23 年 9 月 30 日

#### 6. 審 査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 80 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 24 年度大会会場でパネル展示します。

#### 8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙

写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

#### 10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

#### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

#### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

#### 学会誌 79 巻の小特集のテーマ

小	特	集	テ	ー	マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79巻	4号	地域に貢献する「水土」の改善(仮)				公募終了
	5号	土構造物および土中構造物数値解析とその適用(仮)				公募終了
	6号	九州の地域特性に合わせた農業農村整備				公募なし
	7号	縮小する社会における農業農村整備のかたち(仮)				公募終了
	8号	若者や消費者と農業・農村のかかわり(仮)				平成23年3月25日
	9号	農業土木遺構にみる技術の粋(仮)				平成23年4月25日
	10号	愛知用水通水50周年(仮)				公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

#### 79巻8号テーマ「若者や消費者と農業・農村のかかわり」(仮)

過疎化や高齢化の進行により、地域コミュニティの維持が困難になっている農村が増えつつあります。しかし、その一方で最近、さまざまな形で若者や消費者が積極的に農業・農村にかかわる動きが出てきています。その背景には、農業・農村の将来への危機感、食・農村・自然への関心の高まりがあるとされています。最近の若者や消費者と農業・農村のかかわりは実に多様です。経営コンサルタントをしていた若者が農業法人を立

ち上げ自ら就農した例、「ノギャルプロジェクト」と呼ばれる米の栽培と販売を通じた農村活性化活動への参加、大学生による規格外野菜販売の支援、消費者による援農ボランティア活動など、さまざまな活動が行われています。

本小特集では、若者や消費者と農業・農村のかかわりに関する報文を広く募集します。

#### 79巻9号テーマ「農業土木遺構にみる技術の粋」(仮)

2009年8月に「水土を拓く一知の連環」が出版され、各

地の農業展開と国土開発に寄与する農業工学の功績が網羅的に



整理された。そこに紹介された事業や施設は今日もお役で活躍するものも多く、当時の技術者の自然に対する洞察力の高さ、測量や力学に対する造詣の深さをうかがい知ることができる。

今回の小特集では、当時の「技術力」が凝縮された農業土木遺構に着目し、地域社会の課題に「技術」で応えてきた農業工学の歴史を振り返り、「技術力」を持って社会的課題に対峙する農業農村整備の立脚点を再確認したいと思います。

そこでこの特集号では、過去に築造された施設や工法に込め

られた「技術」に焦点をあて、それを現代の技術や視点から捉え再評価した内容の原稿を募集いたします。正確な配水を担保するための分水施設の仕掛け、排水性と地盤支持力に優れた石積みの工法、流路や通水を検討する際の測量技術、隧道内の地盤崩落を防ぐ掘削方法など、有名無名また規模の大小は問いません。農業土木遺構の紹介に留まることなく、そこに込められた「技術の粋」を現代の科学的知見から紐解き、農業工学の社会的意義を再確認するとともに、これからの農業工学とそれに携わる技術者に活力を与える原稿を広く募集します。

### International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) の国際会議の開催について (第1報)

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) の国際会議は、2011年10月27～28日台北で開催予定と、台湾より第1報が入りました。今年は大学院生会合が企画されていますので、大学院生の積極的な参加を期待しています。

- (1). The PAWEES 2011 conference will be held on 27-28 Oct. 2011 in National Taiwan University, Taipei.

- (2). There will be a student conference at the same time, organized and operated by graduate students.  
(3). Field trip location is still under discussion.  
(4). First announce of the PAWEES 2011 conference will be posted on the next PWE journal and by the website: <http://www.twaes.org.tw/PAWEES 2011/>

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
  - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 8, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお願いいたします。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌, 国際ジャー

ナル「Paddy and Water Environment」は, 2011年3月末に Vol.9, No.1 が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価を得ております。

また、世界13カ国からEditor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾です。なお、2010年10月1日付で、これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から、溝口 勝先生に編集長の交代がありました。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467 FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政

策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社: Springer-Verlag社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 地域環境工学シリーズ9

# 食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 — (社) 農業農村工学会発行

## 目次

- |  |   |
|--|---|
| <p>I. わが国の畑作の歴史と特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国における畑作の歴史</li> <li>2. 営農形態別の特徴</li> <li>3. 畑整備の現状</li> <li>4. 国際情勢、社会情勢の変化</li> <li>5. 中山間地域における畑整備</li> </ol> <p>II. 畑整備の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作物と水</li> <li>2. 畑地基盤と畑作農業</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 畑地の整備手法</li> </ol> <p>III. 畑整備の今後の展開方向</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 畑整備における技術的課題</li> <li>2. 新たな畑整備の展開</li> </ol> <p>IV. 畑整備と地域環境管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土壌侵食防止</li> <li>2. 持続的農業のための土管理</li> <li>3. 畑作と環境保全</li> <li>4. 環境との共存をめざした畑作の将来像</li> </ol> |
|--|---|

A5判 約210ページ 定価3,300円 (税込・送料学会負担)  
 会員特価2,900円 (税込・送料学会負担)  
 [会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
 (社) 農業農村工学会  
 ☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494